

麻績太鼓保存会

「座光寺に太鼓グループをつくりたい」の一念発起から、3年間の修行を経て、高木保良さん（宮崎）が「麻績太鼓保存会」を結成したのは平成12年。その後仲間を増やし、現在は会員12名で活動を続けています。

会の目的は「座光寺の活性化のお手伝い」。麻績神社例祭、座光寺夏祭り、公民館の文化祭などで、迫力のパフォーマンスを演じています。今年の5月6日には東京渋谷で開催されたイベントに参加。普段目にしない迫力ある太鼓の響きが大好評でした。

「太鼓はみんないつしょにつくじあげ、人に見てもらいうもの」と同会代表の高木さん。「次の世代に継承してもらいたい」と、会では小学生を対象にした「麻績太鼓ジニア」にも注力し、若い力の参加に期待しています。興味のある方は、座光寺自治振興センターまでご一報ください。



今年の麻績神社春季例祭で麻績太鼓を披露

旬の座光寺農産物の詰め合わせ。
ふるさとを離れて暮らす方に、
自然の香りや
懐かしい味をお届けしています。

ふるさとパック 夏の味覚満載便 2,000円(送料別)

旬の座光寺農産物の詰め合わせ。
ふるさとを離れて暮らす方に、
自然の香りや
懐かしい味をお届けしています。

お知らせ 座光寺夏祭り 大盛況

座光寺夏祭りが7月28日に行われました。昼間は七夕行列や楽しいアトラクション、竹宵が灯る夕方からは、復活した座光寺音頭、花火、富くじなどが行われました。踊りの輪などで大いに盛り上がりいました。



- お申し込み先 座光寺自治振興センター内 麻績の里ふるさと応援俱楽部 (TEL.0265-22-1401・FAX.0265-22-1475)
E-mail:zakouji@city.iida.nagano.jp
- お申し込み締切 平成25年8月30日
- お届け時期 平成25年9月中旬
※代金は商品到着後にお支払いください。



麻績の里座光寺便涼風号

平成25年7月発行

■ 麻績の里ふるさと応援俱楽部(飯田市役所座光寺自治振興センター内) 長野県飯田市座光寺2535 TEL 0265-22-1401

元善光寺道の道標。「右 もとせんこうじ 左 センこうじ」と刻まれている。古市場水月庵前



座光寺地域遠望(喬木村より)。
2027年、この地にリニアモーターカーが走る

座光寺◆街道物語

道は地域にさまざまな恩恵をもたらしてきました。遙か昔の東山道や江戸時代の伊那街道により、遠来の文化がもたらされ、近年では中央自動車道の開通により、地域は大きく変貌しました。

交通手段も人の力から馬の利用、列車、自動車と、時代とともに移り変わってきました。そして近い将来には、リニア新幹線の開通が控えています。

今回は歴史をさかのぼり、太古から現在までの「広域交通」の変遷に目を向けてみました。





中央自動車道
昭和50年、中央自動車道が岐阜県中津川市～駒ヶ根まで供用開始となり、同57年には全線が開通しました。モータリゼーションによる交通革命は中央と地方を短時間で結び、生活空間を広げ、ライフスタイルを大きく変貌させました。

しかし、この地は東西に山脈がそびえているため、時間距離で首都圏・関西圏から遠いというハンドメイドを現在まで負ってきました。

この地は日本の中間に位置し、古くより西(京)と東(江戸)両様の文化が流入してきました。道の変遷からみれば、東西軸と南北軸が合い合う、交通の十字路にあたっています。

南信州では三遠南信自動車道とリニア新幹線という、新しい東西・南北交通軸が近い将来開通しようとしています。新たな広域交通時代を迎える中で、これまで培った歴史遺産や文化ストックがどのような価値をもつのか、私たちはこれらをどのように活かしていくのか…。いま、地域は過去何度も大きな時代の転換点の中にいます。

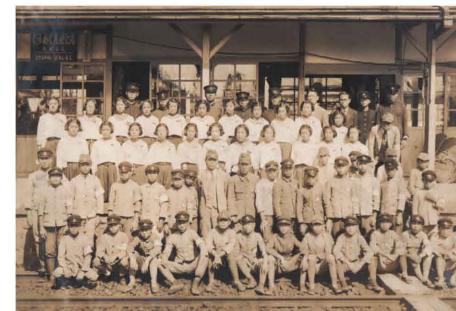
元善光寺の賑わい

林さんは昭和19年、名古屋鉄道局に入社。同59年の定年まで、国鉄(現JR)職員として奉職しました。鉄道が長距離交通の主役であった時代を担ってきた、国鉄マンのひとりです。

昭和初期以降、元善光寺駅の開業に伴い一時は活況を呈します。「駅前には百貨店や旅館があった。座光寺万十の店も多く、よく売れていた」そうです。いまでは無人の元善光寺駅も「当時は助役、乗客係、荷物係の3名が常駐していました。電車は「昭和20年ごろまでは木製だったので、ギ



林 敏さん(市場通り)



秋彼岸の日、元善光寺駅で勤労奉仕。構内で次々に訪れる参拝客の整理にあたった。林さん14歳の時

一ギーと木がきしむ音がした」といいます。鉄道は長きにわたり旅客移送、貨物輸送、そして郵便と、多様な役割を担ってきました。やがてやってくるリニア新幹線の時代。鉄道の盛衰を目にしてきた林さんには、地域の未来はどのように映っているのでしょうか。

東山道は古代(古墳・奈良・平安時代)の都と地方を結ぶ官道のひとつでした。美濃の国(岐阜県)から阿智村の神坂峠を越え伊那谷を通て諏訪に抜け、群馬県から東北地方まで延びていました。当時の都の文化や仏教などを、「この道を通つてもたらされた」と考えられます。

● 東山道

東山道は古代(古墳・奈良・平安時代)の都と地方を結ぶ官道のひとつでした。美濃の国(岐阜県)から阿智村の神坂峠を越え伊那谷を通て諏訪に抜け、群馬県から東北地方まで延びていました。当時の都の文化や仏教などを、「この道を通つてもたらされた」と考えられます。

伊那街道は中山道塩尻宿から伊那谷に入り、天竜川の西を通っていた道で、江戸時代に整備され、道中16の宿場が置かれていました。

● 伊那街道

伊那街道は中山道塩尻宿から伊那谷を通じて諏訪に抜け、群馬県から東北地方まで延びていました。当時の都の文化や仏教などを、「この道を通つてもたらされた」と考えられます。

座光寺の伊那街道は、現在の上原道とほとんど同じと考えられます。夏は日陰をつくり、冬は積雪を防ぐ目的から、街道沿いには3箇所に松並木が整備されていました。

通船も江戸期に整備され、帆掛け船が川を行き交う光景が大正期まで見られました。しかしやがて水力発電事業に伴うダム建設により、川の道・天竜川は役目を終えました。

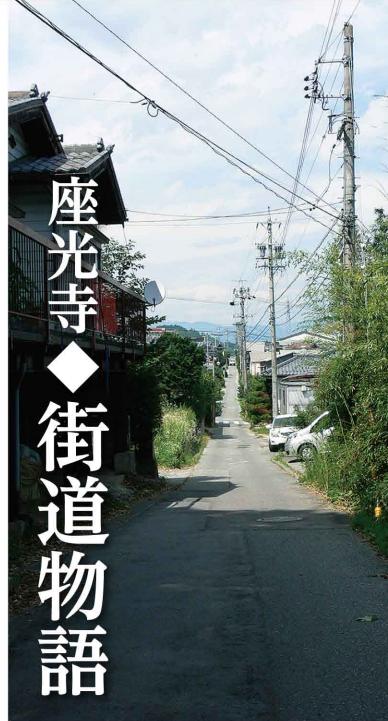
天竜川は物資輸送の道として古くより利用されました。木材を筏に組んで流す筏流しは、昭和の初めころまで行われていました。

天竜川は物資輸送の道として古くより利用されました。木材を筏に組んで流す筏流しは、昭和の初めころまで行われていました。



JR飯田線・元善光寺駅

座光寺◆街道物語



した。中山道の脇往還として庶民に利用され、馬による物資輸送の中馬道としても賑わいました。

中馬は農民の賃稼ぎとして始まり、やがて川の船に対して「岡

船」と呼ばれ、今日のトラック便

のように物資輸送の花形に成長

しました。人力から馬への交通

革命でした。



天竜川

● 天竜川と船運

大正12年に伊那電気鉄道が辰野～元善光寺駅まで開通し、14年には駅から元善光寺まで駅前道路が新設されました。6年後の8年8月には国有化により国鉄飯田線が一本化され、昭和12年8月に豊橋～辰野間が全通となりました。6年後の大正12年に伊那電気鉄道が辰野～元善光寺駅まで開通し、14年には駅から元善光寺まで駅前道路が新設されました。その後4つの私鉄が一本化され、昭和12年8月に豊橋～辰野間が全通となりました。6年後の8年8月には国有化により国鉄飯田線が一本化され、飯田線は中央自動車道開通前まで、広域交通の花形として活躍しました。

● 鉄道の時代

大正12年に伊那電気鉄道が辰

野～元善光寺駅まで開通し、14

年には駅から元善光寺まで駅前

道路が新設されました。